

案件概要書

2022年4月26日

1. 基本情報

- (1) 国名：バングラデシュ人民共和国（以下、「バングラデシュ」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ダッカ管区ガジプール県及びタンガイル県並びにラジシャヒ管区シラジガンジ県、パブナ県及びナトレ県
- (3) 案件名：ジョイデプール-イシュルディ間鉄道複線化計画（Construction of Dual Gauge Double Line Between Joydebpur-Ishurdi Section Project）
- (4) 計画の要約：本計画は、ダッカ近郊のジョイデプール駅から同国西部のイシュルディ駅までの間において、複線化を実施することにより、鉄道輸送能力の強化を図り、国内及び地域の連結性向上を通じた経済発展に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

バングラデシュは、南西アジアと東南アジアの結節点に位置する穏健なイスラムの民主主義国であり、同国の安定的な発展は地域の安定と発展に重要である。同国は堅調な経済成長を遂げており、進出する日本企業数も増加している（2014年5月時点：182社、2018年5月時点：269社、2021年5月時点：321社）。その一方で、インフラの未整備や社会開発の遅れといった課題を抱えており、本件を通じてバングラデシュの東西をつなぐ既存鉄道を複線化することは、同国の安定的な発展に重要である。

バングラデシュは極めて親日的であり、我が国は同国の独立以来の友好国として関係を維持・強化してきた。2014年5月の日・バングラデシュ首脳会談では、「日・バングラデシュ包括的パートナーシップ」を立ち上げるとともに、バングラデシュの経済インフラ整備、投資環境整備、連結性向上に協力していく「ベンガル湾産業成長地帯」（BIG-B）構想を提案した。本計画は、バングラデシュの経済を支える運輸インフラを整備し、連結性向上に資するものとして、同構想に合致しており、良好な二国間関係を維持・強化する観点からも重要である。

また、本計画で日本の支援により複線化する路線を、インドがバングラデシュに対して供与する鉄道車両が走ることが見込まれており、バングラデシュにおける日印協力としての意義もある。

- (2) 当該国における鉄道セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

バングラデシュの鉄道マスタープラン（2019年）によると、同国の鉄道は輸送能力の低さがボトルネックとなり、輸送需要の増加に対応できていないと指摘されている。第8次5か年計画（2020/21-2024/25年度）によると、同国及び近隣諸国の堅調な経済成長等に伴い、同国の輸送需要は年間約8%の伸びを示しており、同国政府は鉄道の複線化等により輸送能力を強化する方針を掲げている。

本計画は、同国内の東西を繋ぐ主要路線であるジョイデプール-イシュルディ間の鉄道を複線化することにより鉄道輸送能力の強化を図るものである。本計画を実施した場合、インド国境にあるダルシャナ駅から当国の首都ダッカまでの全区間の複線化が達成される。これにより、同国西部と首都間の物流が活発化し、国内及び地域の連結性が向上し、地方経済を含め同国全体の経済発展が見込まれる。本計画は、マスタープランにおいて、円借款で支援中のジャムナ鉄道専用橋建設計画とともに最優先事業に位置付けられている。また、本計画は、ジャムナ鉄道専用橋建設事業の東西に接続する既存鉄道を複線化するものであり、同事業との相乗効果が期待される。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

(ア) 複線化工事：土木工事（約 170km）（橋梁建設を含む）、軌道工事、信号通信設備

(イ) コンサルティング・サービス：詳細設計、入札補助、施工監理、環境社会配慮手続き及びモニタリング補助等

② 期待される開発効果：事業対象路線の年間利用者数は約 1,700 万人と見込まれており、これらの利用者の利便性向上・移動時間短縮効果や物流の円滑化・輸送量増大への貢献が期待される。

③ 借入人：バングラデシュ政府

④ 計画実施機関／実施体制：バングラデシュ国鉄（BR）

他機関との連携・役割分担：特になし。

⑤ 運営／維持管理体制：本計画で整備される施設・設備の運営及び維持管理は BR が行う。BR は円借款事業を含め開発援助機関の支援による複数の大規模事業の実施・維持管理経験があり、基本的な運営及び維持管理能力を有している。BR の運営維持管理に係る予算は毎年要求額に対しほぼ満額が配賦されているが、本計画への配賦の見通しについて改めて協力準備調査にて確認する。

(2) その他特記事項

● 環境社会配慮 カテゴリ分類：A

本計画の用地取得によって非自発的住民移転が生じる可能性がある。協力準備調査にて詳細を確認するとともに、影響の回避・緩和策等の詳細を確認する。

● ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

● 他の援助機関の対応：特になし。

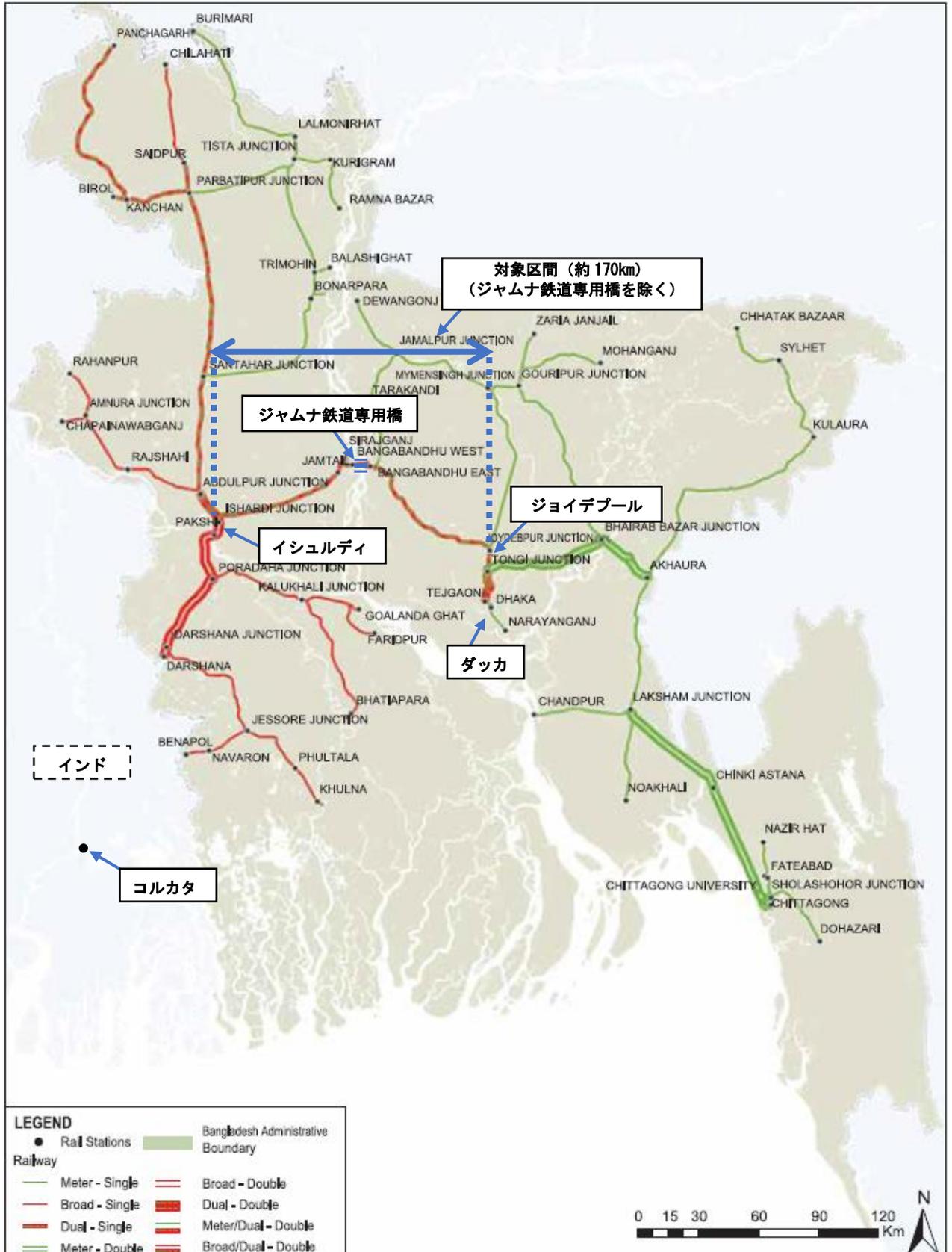
● 気候変動対策：本計画はモーダルシフトにより温室効果ガスの排出削減に貢献すると考えられるため、気候変動対策（緩和策）と位置付けられる可能性がある。協力準備調査にて相手側実施機関と認識を共有するとともに、GHG 排出削減量を推計する。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

インドネシア共和国向け円借款「ジャワ南線複線化計画 (I) (II)」(評価年度：2010年)の事後評価から、新線と既存線の効率的な切り替え工事により、通常の列車運行を確保しつつ迅速に工事を実施できたという教訓が得られている。本計画でも、協力準備調査にて既存線の運行確保と工事の効率化を検討する。

以 上

[別添資料] ジョイデプール-イシュルディ間鉄道複線化計画 地図



出典：Bangladesh Railway「Railway Master Plan (July 2016-June 2045)」より JICA 作成。

[別添資料] ジョイデプール-イシュルディ間鉄道複線化計画 写真
事業対象地域の既存単線区間の様子（左）、別途円借款で支援中のジャムナ鉄道専用橋（右）



出典:サイト視察にて撮影(2021年11月)